

ラジオドラマ
パーフェクトブルー

橋本啓一

人物

西崎卓也	(28)	社会人
宮本仁	(27)	自営業
山本夏希	(24)	OL
山本徹	(52)	会社経営
山本圭子	(49)	主婦
木下元	(53)	会社員
アナウンサー		
漁師1		
漁師2		
社長		
波の音		

仁「今のライディングみたか」

卓也「まあね」

仁「決まってる」

卓也「てけてけ」

仁「お前にはわからねえよ」

パドルする音

仁「波、おわりだな」

卓也「今年、最後だろ」

仁「でかい波、乗りてえ」

波の割れる音

仁「宮崎行かねえか」

卓也「波は？」

仁「台風くるさ」

卓也「仕事しだしたばかりだぜ」

仁「休んじゃえよ」

卓也「おまえみたいに行くか」
仁「らしくねえ。この波いただけ、
ヒヤッホー」

車のアイドリングの音

元「そこの荷物積んでくれ。積ん
だら一緒に来てくれ」
卓也「はい」

車中の音

元「慣れてきたな、覚えいい」
卓也「要領いいと言われます」
アナウンサー「昨日、11時過ぎ
フィリピン沖で台風が発生し
ました。現在のところ北上し沖
縄沖へ向かう模様です」
元「台風の季節か」
卓也「……」

元「バイトいつまでやるんだ？」
卓也「しばらくお世話になりま
す」

元「ここらで落ち着いたらどうだ、
いつまでもバイトじゃしよう
がないだろ」

卓也「はあ」

元「社長に言ってやろうか？」

卓也「え！」

夜の海の音

夏希「卓也君、ずっと海と一緒に
いたいんでしょ」

卓也「まあね」

夏希「私ね……」

卓也「うん？」

夏希「……私ね……」

卓也「なに？」

夏希「お見合いの話あるの」

卓也「お見合い？」

夏希「うん」

卓也「∴」

夏希「前から、断つてたの」

卓也「∴」

夏希「今度は無理みたい」

卓也「俺、おまえんち行こうかな」

夏希「ええ！」

卓也「言つといてくれ」

夏希「うん」

トラックの出入りする音

元「社長が呼んでるぞ」

卓也「え？はい」

音
トラックのアイドリングの

社長「頑張ってるようだな」

卓也「ああ、はい、なんとか」

社長「慣れたか？覚えいいそうだな」

卓也「はあ」

社長「うちで欠員できてね。君、社員でやってみないか」

卓也「え？」

社長「すぐに返事しなくていい。考えて返事してくれ」

卓也「ええ…はい」

夜の海の音

夏希「本当いいの？」

卓也「いいさ、そっちは」

夏希「お父さんには話した。お母さんは嬉しそう」

卓也「スーツ着てくか」

夏希「スーツなんか持ってるの？」

卓也「一着だけね」
夏希「なんか嬉しい」

ドアの開閉音

卓也「はじめまして西崎卓也です」

徹「夏希の父です」

圭子「どうぞ、おかけになっ

てください」

卓也「はい」

ティーカップを置く音

徹「西崎君は海が好きだそうですね」

卓也「はい、波乗りをします」

圭子「波乗り？」

夏希「波に乗るのよ、ハワイなんかでやってるでしょ」

圭子「ああ、板に乗るのね」

夏希「波に乗るの」

徹「今、仕事は？」

卓也「木下運送で働いてます、バ

イトですが」

徹「バイト？将来は？何か計画で

も」

卓也「社員になろうかなと思って

ます」

徹「……」

夏希「お父さん、卓也君、波乗り

うまいのよ。大会でいつも優勝

するの」

徹「お父さん、波乗りはよくわか

らないな。波乗りで生活できる

のかな」

圭子「お酒よろしいんでしょ」

卓也「ええ」

圭子「今日は、みんなで飲みまし

ょう。お父さんいいでしょ」

徹「ああ、そうだな」

圭子「夏希、用意してきなさい」

夏希「はい」

バーの喧騒

仁「夏希の親に会ったんだって」

卓也「ああ」

仁「よく会えたな、夏希、お嬢さ

んだろ」

卓也「まあね、これおかわり」

仁「台風、北上してるぜ」

卓也「うん」

仁「もうすぐ沖縄沖だろ、来週行

こうぜ」

卓也「うん」

仁「なんだよ」

卓也「休めないよ」

仁「おまえ変わったな」

卓也「そうか」

仁「俺、来週頭から行くぜ、行くんなら連絡くれな」

卓也「ああ」

夜の波の音

夏希「お母さん気にいつてた、お父さんはね……」

卓也「なに？」

夏希「……うちの仕事してみないかだって」

卓也「仕事？」

夏希「仕事覚えてほしいんじゃないかい」

卓也「ああ」

夏希「卓也君、海が好いでしょ」

卓也「……」

夏希「私ね」

卓也「うん」

夏希「お見合い断れない」

卓也「……」

夏希「来月しなさいだつて」

卓也「どうしてもか？」

夏希「ずっと伸ばしてたんだつて、

今回は無理みたい」

卓也「……」

夏希「ごめんなさい」

卓也「おまえのせいじゃないさ」

夏季「私、どうしたらいい？」

卓也「……店やるつて言つたらどう

する」

夏希「店？」

卓也「板削つて売るのはさ」

夏希「サーフボード？」

卓也「そう」

夏希「いいな、一緒にいたい。で

も、私、うちのことあるし」

卓也「簡単にはいかないよな」

夏希「……」

卓也「俺、来週、宮崎行つてくる」

夏希「宮崎、仁君と？」

卓也「ああ、台風来てるし。あいつやる気まんまん、だれも乗ったところないポイント捜すとか言ってる」

夏希「ふーん」

卓也「真面目に考えてみるな」

夏希「うん、気をつけてね」

卓也「ああ」

車中の音

仁「よく来れたな、どうやったんだ」

卓也「うまくやったさ、波は？」

仁「あるにはあるさ」

卓也「パーフェクトな波、乗りた
い」

仁「いつものところ行って考えよう
ぜ、テントあるし」

卓也「だな」

アナウンサー「台風4号は沖縄沖に停滞し勢力を増しています。今後の動向に注意してください。さ
い」

ラジオから音楽

仁「気分だな」

卓也「ああ」

仁「なんか気がないな、人生でも

考えてるのか」

卓也「まあね」

仁「」

卓也「星が綺麗だな」

仁「なに言ってるんだ」

虫の鳴き声、波の音

卓也「スーッとしか見えねえ」

仁「あまり期待でそうにないな。

めし行くか」

卓也「市場？」

仁「あそこうまい魚食える」

卓也「めし食って出直しだ」

食堂の喧騒

仁「うまい」

卓也「おばちゃん、めし」

漁師1「沖島の裏行つたことある

か」

漁師2「あんなところ、どうやって

行くんだ。潮は早えし、波も高

い。だいたいどこへ船つけるん

だ」

漁師1「湾があるさ、潮読めば行

ける」

漁師2「何しに行くんだ」

漁師1「いい魚取れる」

漁師2「俺はいいよ」

卓也「おい、沖島ってどこだ」

仁「島のどれかだろう。あの辺

、地形が複雑で潮が早いらしい。

：「におうな」

卓也「地図は？」

仁「車の中」

卓也「搜してみるか。おばちゃん、

おかわり」

仁「おまえ、食いすぎだよ」

朝の波の音

仁「駄目だ、よくない」

卓也「これじゃ岩場も駄目だろ

う」

仁「せっかく来たのにな」

卓也「あせるな、ゆっくり行くさ」

夜の海の音

仁「しまらない波だったな」

卓也「こんなもんだ」

仁「なんか余裕だな」

卓也「そうか。漁師が言ってた島、
行ってみるか」

仁「どうやって行くんだ、地図に
もないし」

卓也「漁師捜して乗っけてつても
らう」

仁「根性あるね」

卓也「人生賭けてるんでね」

仁「人生？」

卓也「夏希、来月お見合いだつて。

俺、リーチだよ」

仁「お見合い？」

卓也「ああ、前から話あったらし
い」

仁「どうするんだ」

卓也「どうしよう」

仁「むずかしいな」

卓也「だろ」

仁「…卓也、おまえもつたいないよ、才能あるし。板削って売れよ、波わかってるし、ブランドつくっちゃえよ」

卓也「板？削ったことないよ」

仁「去年来てたろ、マイクのところ行けよ。いつでもいいって言ってる、すぐ作れるさ。夏希には、よく話してさ」

アナウンサー「台風4号は依然、沖縄沖に停滞し勢力を増しています、今後の動向に充分ご注意下さい」

卓也「明日、あの漁師さん捜すぜ」
仁「ああ」

市場の喧騒

漁師2「沖島のことか。あれは源
さんでねえとな」
仁「どこに行けば会えますか？」
漁師2「今日は見ねえな。きまま
だからな。しばらくして来てみ
な、顔だすかもしれねえ」
仁「はい。どうする」
卓也「また来るさ。めし行こう」
仁「めし？」

食堂の喧騒

卓也「おばちゃん、いつものね」
仁「いたよ」
卓也「どこ」
仁「ほら、あそこ」
卓也「すいません、源さんです
か？」
漁師1「なんだ」
卓也「沖島、今度いつ行きますか」

漁師 1 「沖島？」

仁 「ええ」

漁師 1 「なんで知ってる？」

卓也 「話されてるの聞いたんで」

漁師 1 「なにするんだ」

仁 「波乗りします」

漁師 1 「波乗り！あんなところで出るか」

卓也 「波、ありますか？」

漁師 1 「波！あるよ、裏っ側にな。こんな北斎の絵みたいなのがな」

卓也 「下は？どうなってます？」

漁師 1 「下か、岩だな。浅い、急

に浅くなってる」

卓也 「乗っけてってください」

漁師 1 「連れてけだ！明日、大潮か。帰りはしらねえぞ、食い物用意してきな、一週間分くらい。いつ来れるかわからねえ

ぞ
」

卓也 「はい、お願いします」

漁師 1 「明日、4時くらい来な」

夜の海の音

仁 「これだけあれば大丈夫だろ

う
」

卓也 「買い込んだな」

仁 「飢え死にするわけいかないだ

ろ
」

卓也 「死ぬには早い」

仁 「おまえ、今回でケジメつけよ

うと思ってるだろ」

卓也 「いつでも波乗りは出来る

さ
」

仁 「そうか？」

船の音

漁師 1 「おまえたちもよくやるな。

波に乗ってなんになる、バカじやねえか」

卓也 「バカです」

漁師 1 「ふん。ここはだれも来ねえよ。潮早いし、浅い、海わかつてねえとな」

仁 「おじさんはいつから」

漁師 1 「5年。流されてな、たまたま着いちゃった。兄ちゃん、そつちへロープなげてくれ」

ロープの投げ込まれる音

漁師 1 「そこに崖がある、崖づたいに小道がある、裏に出れる。

3 日後に来る、死ぬなよ」

仁 「はい、どうも」

遠くで波の割れる音

仁「大変なところきたな」
卓也「気分でききたる」
仁「ですぎだ」
卓也「いい感じだ」
仁「……」

大波の割れる音

仁「すげえ！」
卓也「ああ、すごい」
仁「日本かここは」
卓也「日本だよ」
仁「できるのか」
卓也「やってみるさ」
仁「俺は……」
卓也「俺は行くぜ。おまえ、こ
こで震えてな」

海上の波の音

仁「すげえよ！やばいよ！」
卓也「クールになるんだ。あの波、
行くぜ」

大波の割れる音

パドルの音

仁「おまえ、すごいな」
卓也「乗ってすぐチューブ、10
0メートルは乗れる。やってみ
な」

大波の割れる音

卓也「やったな」
仁「すげえ、板が勝手に滑ってく
卓也「やれるだろ」
仁「根性できた」

卓也「調子でできたな」

かもめの鳴声

仁「波はある、天気はいい、おまけに海は真っ青」

卓也「パーフェクトだな。パーフェクトブルー」

仁「最高だ！」

卓也「仁、俺、決めたぜ、ハワイに行く」

仁「そうか」

卓也「板削れるようになってくる。

店出すさ、ずっと海と一緒にだ」

仁「夏希は？」

卓也「話してみる、わかってくれ

るさ」

仁「だな」

大波の割れる音

夕方の海の音

夏希「いい波当たったみたいね」

卓也「今までで一番の波だった」

夏希「よかったね」

卓也「夏希、俺、決めた」

夏希「」

卓也「ハワイ行く、板削れるよう

になつてくる」

夏希「」

卓也「待つててくれ。3年、いや

2年で帰ってくる」

夏希「うん、でも…待てない」

卓也「ごめんな、俺、海もおまえ

も必要だ」

夏希「うん」

飛行機の離陸音
空港の雑踏

アナウンス「まもなくホノルル行き168便出発します、ご搭乗のお客さまはお急ぎ下さい」

卓也「行くよ」

夏希「遊びに行つていい？」

卓也「いいさ」

夏希「気をつけてね」

卓也「いつちよ前になつて帰つてくる」

夏希「：」

卓也「見合いでするなよ、じゃ」

アナウンス「ホノルル行き168便最終のご案内となります。ご登場のお客様はお急ぎ下さい」

夏希「：卓也君」

卓也「うん？」

夏希「待つてる」

卓也「なに？」

夏希「私、待つてる！」

卓也 「ああ、待ってる」

飛行機の離陸音

大波の割れる音